

令和4(2022)年度 病害虫発生予報 第7号

令和4(2022)年10月21日
栃木県農業環境指導センター

保温開始に伴う病害虫の発生増加に注意しましょう！

予想期間 10月下旬～11月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は少ない(平年比0%：ほ場率、株率)。(－)
・ 向こう1か月の気温、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±～＋)
- (3) 対 策 ・ 日照不足等で、株が軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
・ 予防を主体に、ベルコートフロアブル(F:M07)等を使用する。
・ ほ場を良く観察し、初発を見逃さない。発生が見られたら、シグナム WDG(F:11、7)等を散布する。

2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(平年比29%：ほ場率、平年比11%：株率)。(－)
・ 向こう1か月の気温、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
・ 天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の増殖を抑制しておく。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

3 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は少ない(平年比5%：ほ場率、平年比0%：株率)。(－)
・ 向こう1か月の気温、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 雑草はアザミウマ類の増殖源になるので、施設内及び周辺の除草を行う。
・ 10月中旬までに開花が進んでいるほ場では、秋期のアザミウマ類の飛び込みが多くなる傾向にあり、翌年春以降の発生につながるおそれがあるので、防除を徹底するとともに、低密度のうちにマッチ乳剤(I:15)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

4 トマト コナジラミ類(黄化葉巻病(TYLCV))

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い(平年比234%：ほ場率、平年比586%：株率)。(＋)
・ 向こう1か月の気温、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ ウイルスを媒介するタバココナジラミの侵入を防ぐため、ハウスの開口部(出入り口、側窓、天窗)に0.4mm目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
・ 黄色粘着板の設置によりコナジラミが見られた時はアニキ乳剤(I:6)等を散布する。
・ 発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
・ 耐病性品種であっても、本病に感染すると伝染源となるため、感受性品種と同様に適正な防除をする。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 きゅうり コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(平年比107%：ほ場率、平年比740%：株率)。(＋)
・ 向こう1か月の気温、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 密度が増加すると防除が困難になるので、ほ場内に黄色粘着板を設置する等、早期発見・早期防除を行う。
・ 薬剤感受性の低下を避けるため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
・ 施設内外を除草するとともに、ハウスの開口部に0.4mm目合以下のネットを張る等の耕種的防除を徹底する。

(4) 備考 ・ タバココナジラミは退緑黄化病(CCVV)、オンシツコナジラミは黄化病(BPYV)を媒介する。

6 野菜類(いちご・キャベツ・レタス等)・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 9月第6半旬までのフェロモントラップによる誘殺数は平年並。(±)
 ・ いちごでの発生量は平年並(平年比110%：ほ場率、平年比60%：株率)。(±)
 ・ 向こう1か月の気温、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対策 ・ 定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
 ・ 幼虫の齢期が進むと被害が大きくなる上に、薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。
 ・ ほ場内外の雑草が増殖源となることがあるので、除草する。

7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	アブラムシ類	平年並	平年並	にら	白斑葉枯病	少	やや少
トマト	灰色かび病	少	やや少		アザミウマ類	やや少	やや少
きゅうり	べと病	やや多	やや多	野菜類	タバコガ類	平年並	平年並
ねぎ	アザミウマ類	やや多	やや多	さく	ハダニ類	平年並	平年並
	ハモグリバエ	やや多	やや多				

秋の病害虫防除対策

○イネ 縞葉枯病

・ 縞葉枯病が発生したほ場の再生稲(ひこばえ)は、媒介虫のヒメトビウンカの増殖源と縞葉枯ウイルスの獲得源になります。早めに丁寧な耕起を行いましょ。

○麦類 種子伝染性病害

・ 近年、オオムギ斑葉病やムギ類黒節病等の種子伝染性病害が発生しています。種子消毒を行うとともに、は種は適期に行いましょ。

○いちご 炭疽病・萎黄病

・ 本ほでの発生が見られた場合や発病及び感染が疑われる株は早急に取り除き、ほ場外で適切に処分しましょ。

○トマト・なす等 トマトキバガ

・ 令和3(2021)年11月、外来害虫の本種が国内で初確認されました。10月現在、11県で発生が確認されています。栃木県における発生は確認されていませんが、飛翔による分散や苗類等を介して本ほでの発生が懸念されます。発生が疑われる場合はお近くの農業振興事務所、又は農業環境指導センターへ御連絡ください。

・ [注意喚起チラシ](#)を当センターHPに掲載中です。

○ナシ黒星病・炭疽病、りんご斑点落葉病・褐斑病(秋季防除)

・ 病原菌は芽や落葉で越冬し、翌年の発生源となるため、収穫終了後は徒長枝の先端まで薬液がかかるよう丁寧に薬剤散布を行い、園内外の落葉を集めて適切に処分しましょ。防除の際は周辺へ飛散(ドリフト)しないよう十分注意しましょ。

[植物防疫ニュース\(速報No.8\)](#)、[りんご褐斑病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

○令和4年11月から令和5年1月まで、栃木県の「農業危害防止運動期間」を実施します。農業は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、農業による事故等の発生を防止しましょ。

1か月気象予報(予報期間10月22日から11月21日 10月20日気象庁発表)

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年並です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

項目	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	30	30	40
降水量	40	30	30
日照時間	40	30	30

詳しくは農業環境指導センター(Tel 028-626-3086)までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ(<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>)でもご覧になれます。

